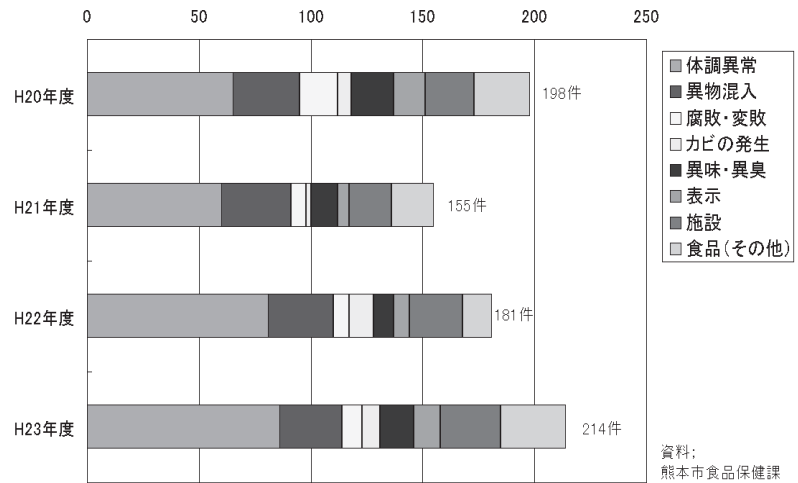


(3) 食品苦情の受付状況

本市における過去5年間の苦情の受付状況は、毎年155～253件で推移しています。

また、苦情内容も食中毒を疑うような体調異常や昆虫・毛髪などの異物混入、さらに施設の衛生面など多岐に渡っており、製造・加工工程にまで踏み込んだ調査や対応が求められています。

《 食品苦情受付状況(H20～H23年度)、熊本市 》



(4) 食品の検査状況

本市では、「熊本市食品衛生監視指導計画」に基づいて、市内を流通する食品(生鮮農産物や輸入食品を含む)や熊本市内の製造施設で製造される食品を中心に、主として収去(しゅうきよ)²により、年間300検体を超える食品の安全確認検査を行っています。

理化学検査では食品添加物や残留農薬を中心に、微生物検査では食品衛生法に基づく規格基準や熊本県食品の衛生に関する指導基準に基づく項目や食中毒の原因となる細菌やウイルスを対象に実施しています。

これまでの検査では、食品衛生法に基づく規格基準の違反等は少ないものの熊本県食品の衛生に関する指導基準の不適合事例が多く見られます。

《 食品の検査状況(H20～H23年度)、熊本市 》

	H20年度		H21年度		H22年度		H23年度	
	検体数	不適等	検体数	不適等	検体数	不適等	検体数	不適等
畜産食品	33	0	34	0	39	0	23	0
畜産加工食品	15	0	15	0	14	0	11	1
水産食品	46	0	42	1	42	0	41	0
水産加工食品	16	1	14	0	17	0	23	1
農産食品	60	0	59	0	60	0	76	0
農産加工食品	72	3	65	5	63	2	68	3
弁当、惣菜	71	8	76	14	75	15	90	18
その他の食品	39	2	35	2	43	3	39	1
計	352	14	340	22	353	20	371	24

² 収去(しゅうきよ) 食品衛生法第28条に基づき、食品衛生監視員が必要に応じ、食品の製造施設や販売施設等から、食品や添加物などの検査のため必要最小限無償で採取することです。

また食品衛生監視員とは、保健所等に勤務し、飲食店などの営業施設に立ち入り、衛生状態の監視・指導を行ったり、市民から寄せられる「食」に関する苦情や食中毒発生時の対応、さらには、食品営業許可に関する業務を行っています。

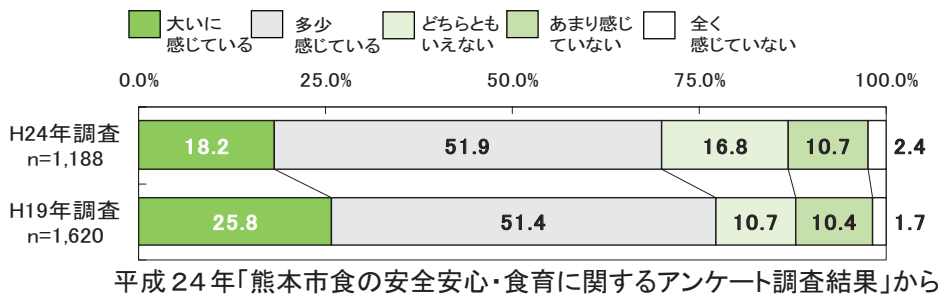
(5) 食品の安全・安心に対する関心や意識

食品の安全性について何らかの不安を感じている市民が依然として7割に上る結果となっています。なかでも、輸入食品(65.2%)、食品添加物(63.3%)、残留農薬(55.7%)、食品の不正(偽装)表示(51.6%)については、半数以上が不安や不信を感じており、食品衛生行政に対してのさらなる検査や監視の充実を求める声もありました。

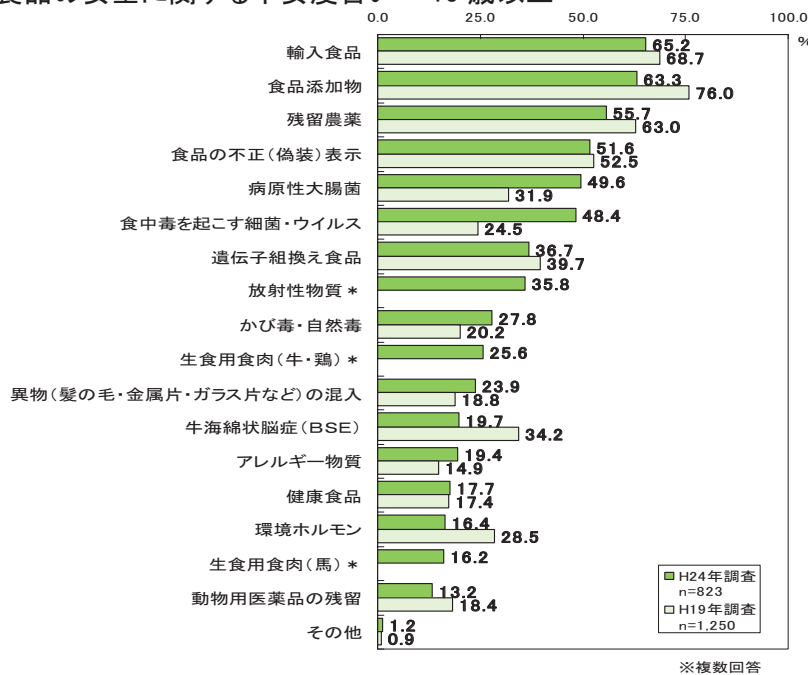
不安を感じるときとしては、スーパー等で肉、魚、野菜等を購入するとき(76.1%)が最も高く、他方で中食を購入するとき(43.5%)が、飲食店で外食するとき(27.9%)を上回る結果となっており重点的な監視指導が必要となっています。

さらに、市民が求める熊本市の情報を発信する手段として効果的なものとしては、テレビ(69.4%)、市政だより(65.7%)、新聞(43.6%)が高く、それに比べ、市のホームページ(22.3%)は低く、また平成20年より開設した「くまもとの食のひろば」ホームページの認識度も5人に1人程度でした。これらのことを考慮して今後は各種広報メディアを効果的に組み合わせる必要があると思われます。

■ 食の安全に不安を感じるもの -15歳以上-



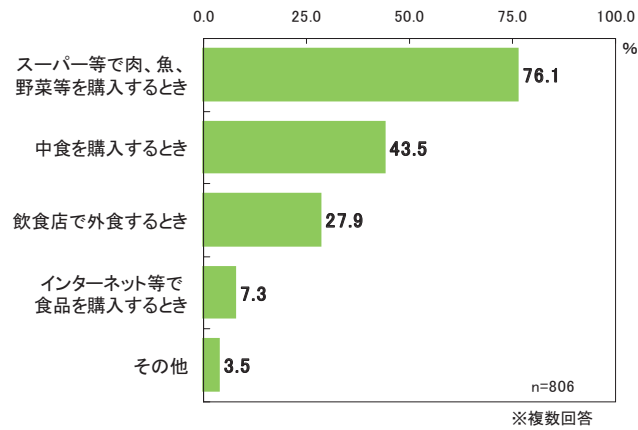
■ 食品の安全に関する不安度合い -15歳以上-



* はH24年調査より追加した選択肢

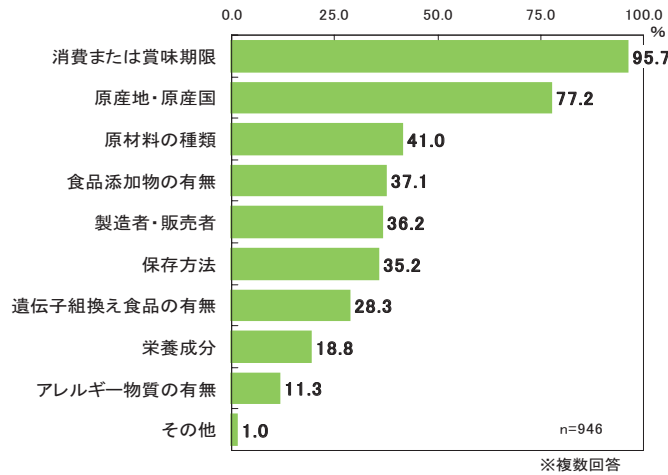
平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

■食品の安全について不安を感じる時 -15歳以上-



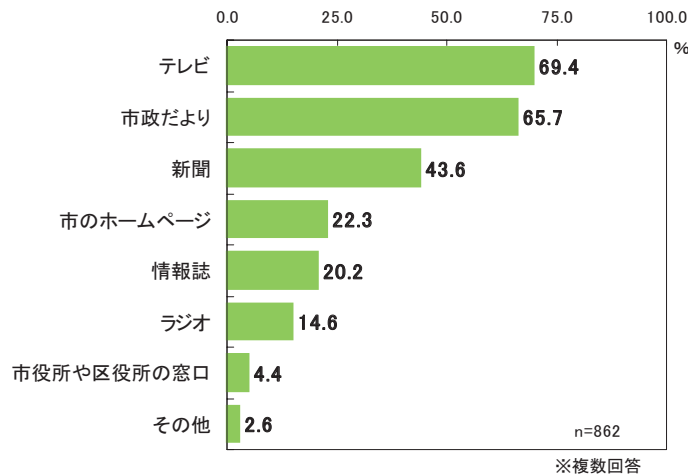
平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

■食品を購入する際に確認する表示 -15歳以上-



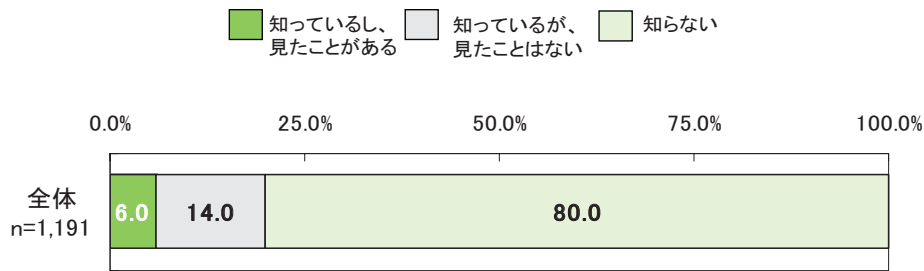
平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

■情報を発信する手段として効果的なもの -15~64歳-



平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

■くまもとの食のひろばの認知度 -15歳以上-



平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

「くまもとの食」ホームページ <http://www.kumamoto-shoku.jp/> (PC用)

■ 熊本市 知りたい 伝えたい くまもとの食

くまもとの食

検索

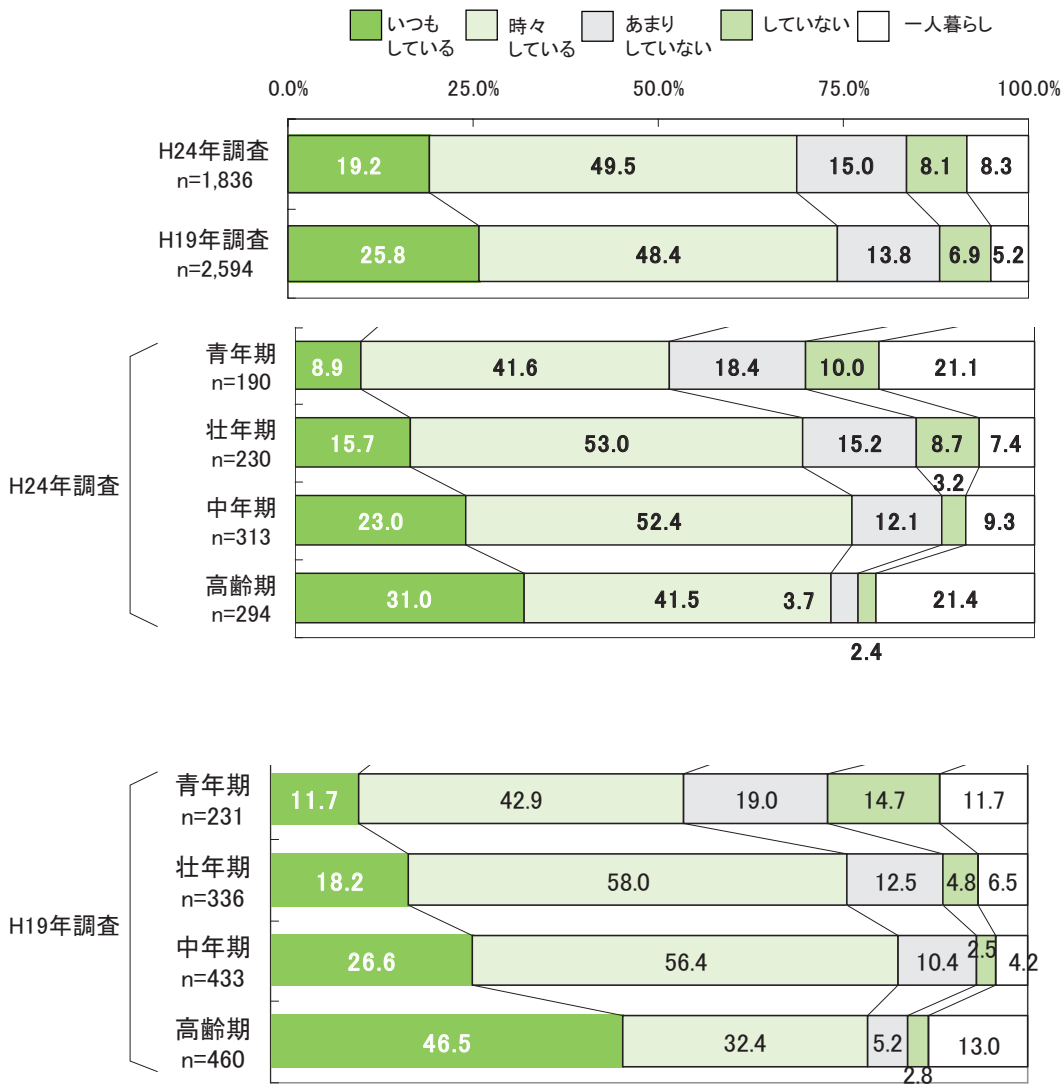
3 食生活の現状

(1) 家庭での食や健康に関する会話

家族が食卓を囲んで共に食事を取りながらコミュニケーションを図ることは、食育の原点であり、子どもへの食育を推進していく大切な時間と場です。現在、ライフスタイルや家族の関係は多様化しており、家族そろって食卓を囲む機会が少なくなり、家族と楽しく食卓を囲む機会が少なくなり、一人で食事をすることも少なくありません。

本市においても、家族で食や健康について「いつも話をしている」は19.2%、「時々している」は49.5%となり、H19年度調査より少なくなっています。また、高齢期においては、一人暮らしの増加などにより「いつも話をしている」が、著しく減少しています。

■ 家族で食や健康について話をする ～0歳を除く～



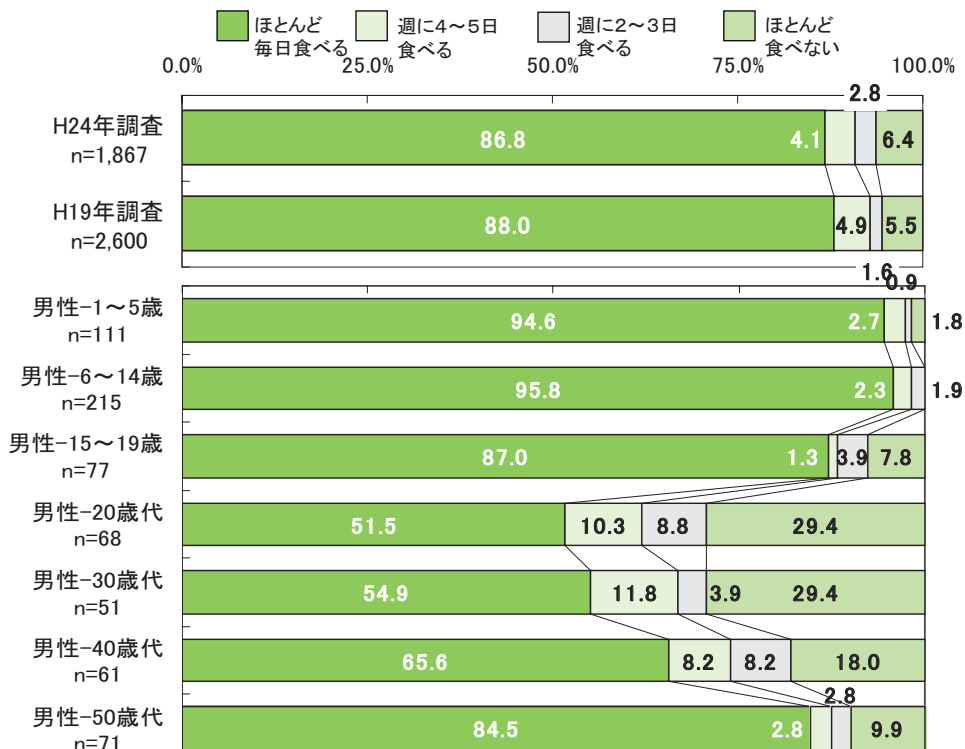
平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

(2)生活リズムの乱れと不規則な食事

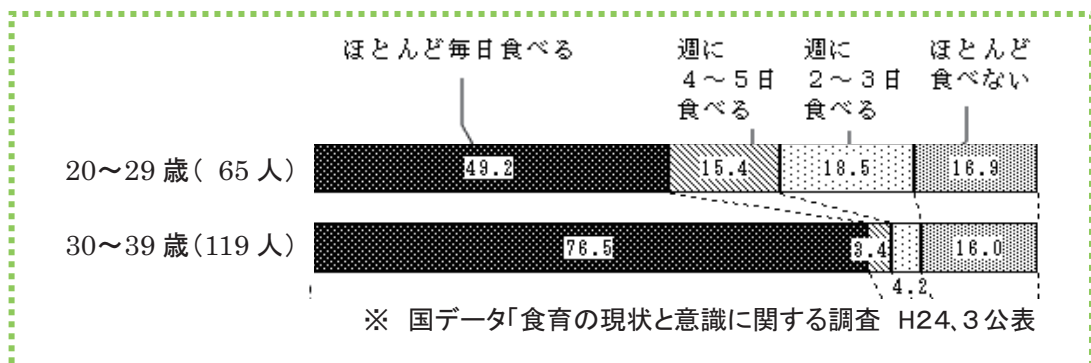
家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進は大変重要ですが、朝食の欠食に代表されるような不規則な食生活は全国的にも問題となっています。

本市においても、13.2%の人が毎日は朝食を食べておらず、特に20代・30代男性の朝食の欠食³率はそれぞれ29.4%と国よりも高く、3人に1人が朝食を「ほとんど食べていない」と答えています。食べない理由は、「時間がない」「食欲がない」「食べるより寝ていたい」という理由が多く、生活リズムの乱れから朝食の欠食、また、健康的な生活への影響が見られます。

■ 1週間あたりの朝食を食べる頻度 ～0歳を除く～



平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から



³ **欠食** 1日3回の食事を基本として1回でも食事をしないことや、菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合や錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラル・栄養ドリンク剤のみの場合を欠食と言います。

成果指標での欠食率は「あなたはふだん朝食を食べますか？」という問いに対して「ほとんど食べない」と回答した市民の割合を示しています。